

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立鹿島小学校（外 10校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL等
鹿嶋市立鹿島小学校	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92	http://www.sopia.or.jp/kasyo/wp/%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e6%b4%bb%e5%8b%95%e3%83%bb%e5%a4%96%e5%9b%bd%e8%aa%9e%e3%81%ae%e5%ad%a6%e7%bf%92

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2020年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げている。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

(3) 特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

(4) 取組の期間

2030年4月まで

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている
- ・一部、計画通り実施できていない
- ・ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

なし。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- 実施している
- ・実施していない

<特記事項>

(1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
85.9%	10.8%	3.3%	0%

② ALTと英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという と楽しい	どちらかという と楽しくない	楽しくない
83.4%	13.3%	3.3%	0%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになり たい	どちらかという と話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
87.6%	10.7%	0.8%	0.9%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
82.6%	10.7%	4.9%	1.8%

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという と 楽しくない	楽しくない
80.0%	18.5%	1.5%	0%

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかという 楽しい	どちらかという と 楽しくない	楽しくない
77.0%	19.2%	2.9%	0.9%

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになり たい	どちらかという と 話せるようになり たい	どちらかという と 話せるようになら なくてもよい	話せなくてもよい
82.2%	13.3%	2.2%	2.3%

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかという と 知りたい	あまり知りたくな い	知らなくてよい
73.3%	21.4%	4.4%	0.9%

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
83.8%	16.4%	0%	0%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
87.0%	13.0%	0%	0%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
80.6%	19.4%	0%	0%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語に慣れ親しむこと。 ・ 簡単な表現でも、少しずつ英語での会話ができるようになること。 ・ 英語に興味をもってもらう態度を養うこと。 ・ 英語は楽しいな、と思えて生涯親しみ、英語への意欲が高まればいいなと思う。 ・ 外国や異文化への関心を高める。 ・ 外国語の楽しさを伝えること。 ・ 外国語を学ぶというよりも、外国語に慣れ親しみ、もっと聞きたい、話してみたいと思えるようなプログラムで今後も進めていただきたいと思います。 ・ 外国語学習に興味をもち、楽しみながら取り組むことができる。異文化理解。会話能力の向上。 ・ 外国語活動を経験することで、日本以外の文化にふれられること。 楽しく英語が身につく、自然に単語がでてきて友達とコミュニケーションがとれること。 ・ 楽しく外国語に触れること。 ・ 子どもたちが、楽しい学習を通して、外国語に強い関心をもつこと。 ・ 次年度以降の学習への抵抗感がなくなるような、温かい活動を期待しております。 			

す。

- ・生活の中に馴染む外国語活動になればよりいいと思う。
- ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成。
- ・早い年齢から始めるとリスニングの力がつくと思います。恥ずかしさが出る前にどんどん英語で会話できると英語に慣れ親しむと思います。
- ・低学年から外国語に触れることで、母国語以外の音に抵抗なく慣れ親しむことができると思います。
- ・低学年から外国語活動をすることで外国語や外国人に対する抵抗がなくなると思います。
- ・日本人特有の英語を話すことへの抵抗感を抱かないよう、コミュニケーションの楽しさを身をもって感じて欲しいです。
- ・表現力の向上。
- ・英語に慣れ親しむ。

(4) 保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
60.5%	31.7%	6.7%	1.1%

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
81.7%	16.3%	1.1%	0.9%

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化(生活, 習慣, 行事等)に対する興味・関心が高まっていると思いますか。

思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
49.0%	40.5%	8.6%	1.9%

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。

(自由記述)

- ・授業回数をもっと増やして頂き、英語がもっともっと身近にある環境になると嬉しいです。

- ・楽しいと思えることが大事だと思う。たくさん聞かせて苦手意識を除いてほしい。日本の英語教育は文法など、難しいことばかりなので、言葉のシャワー的に耳で覚える英語を身につけてきてほしい。
- ・とにかく楽しんで授業を受けられること。
- ・外国語活動を通して、簡単なコミュニケーション能力が身につけば良いなと思います。
- ・楽しみながら積極的に英語を話そうとする態度が育ってほしいです。
- ・英語での挨拶と簡単な会話ができるくらいまでになってくれたら良いなと思う。
- ・外国語に興味を持って頑張りたいと思います。これからもよろしくお願いします。
- ・興味を持たせること。
- ・話せたら素晴らしいってこと。
- ・英語を身近に感じ学んで欲しい。発音を身につけて欲しい。
- ・海外の国々へ感心を持つ。
- ・基本的な挨拶やコミュニケーション能力があがることを願います。
- ・外国の方と交流すること。
- ・外国の先生に触れる事。
- ・将来、学業や仕事等で必要となる、外国の方とコミュニケーションがとれるようになること。
- ・少しでも慣れてもらえれば良い。
- ・日常会話の習得や異文化の理解。
- ・コミュニケーション。
- ・今どのような学習をしているかわかりませんが、アウトプットする事に抵抗がなくなるような機会が多くある授業だと嬉しいと感じています。よろしくお願いします。
- ・簡単な単語。
- ・英語を身近に感じてもらえれば良いと思います。
- ・外国語活動を通して、他国に対しても興味や関心を持ってもらえたらと思います。
- ・異なる文化や言語があることを知り、その事に興味を持てること、外国語に触れて本格的な学習になった時に身構えずに取り組めること。
- ・英語が身近に感じられるようになる事。
- ・日常的に英語に触れ合う環境。
- ・日本と違う文化がたくさんあることを教えてもらいたいです。
- ・外国語に触れる第一段階だと思うので楽しんで英語に慣れていければと思います。
- ・英語の授業にすんなりと入れるようになれば良い。
- ・英語力が身につくこと。
- ・積極的に挨拶したり、話したり、質問に答えたり、恥ずかしがらずに声に出す機会が増えることを期待します。
- ・英語に苦手意識を持たずに、楽しく参加できる活動内容を期待します。
- ・学校の英語の授業で何をしてきたのか、保護者にもわかるような内容にしていただけると、どのような取り組みをしているか保護者にもわかると思います。
- ・今後も引き続き楽しんで英語を学べる活動を宜しくお願いします。

- ・外国に興味を持ち、身近に感じてほしい。
- ・色々な事に興味を持って貰いたい。
- ・耳が柔らかいうち発音。
- ・使わない英語ではなく、ちゃんと外国の日常として話す会話の受け答え方で教えていただきたいです。
- ・色々なシチュエーションの会話をもっと増やしてほしい。
- ・歌なども、すごくいいと思うが、意図した歌、例えばフォニックスを感覚で覚えられる歌などを1回1音で学習し、その授業内で音と、アルファベットをリンクさせるようなペーパーなどを使うなど、その後の三年生以上での英語学習につながる内容だとよりいいなと感じた。また、3年でのローマ字の学習が始まると、英語を英語音ではなく、英語を日本語音で覚えてしまう懸念も少なからずあるため、早い時期でのフォニックスの習得をすることで、3年時のローマ字学習時にいい意味での子供達の、ローマ字への違和感を感じる手立てとなり、ローマ字の習得にも一役買うのではと感じる。
- ・英語に慣れ親しむこと。
- ・将来、役に立つと良いです。
- ・英語を楽しく身近に感じたり（苦手意識や表現する恥ずかしさを感じないように）、外国の文化や日本との違いから多様性を学んだりできるように期待します。
- ・英語に苦手意識を持たずにすること。
- ・日本語以外の発音の多様性に触れる。
- ・日本人以外の人を身直に感じる。
- ・日本語以外を使ってみる体験。
- ・語学力の向上。
- ・英語を嫌いにならないように活動してほしいです。
- ・外国語を使用することを恥ずかしく思う気持ちを減らすこと。
- ・英語は楽しいと思える環境づくり。
- ・英語の勉強を楽しんで取り組んでもらい、自分からもっと勉強したいと思ってもらえたらとおもっています。
- ・発音が上手くなるのと、A~Zまで書けるようになればいいなと思います。
- ・外国語の勉強に対する苦手意識をなくす。
- ・英語に興味をもつこと。
- ・子どもたちが楽しみながら外国に興味を持てるような授業を期待します。
- ・たくさん、英語を発声する機会がほしい。
- ・現実的には難しいと思うが、可能なら英語に限らない学習があってもいい。
- ・英語の単語や今以上に興味を持ってくれることを期待したい。
- ・ネイティブな発音に聞き慣れること。
- ・積極的に外国語活動を増やしてほしい。
- ・自然に慣れていってほしい。
- ・上の学年に繋がるような、楽しく英語を学ぶ基礎づくり。

4.

実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の学校組織目標として「表現力の向上」を掲げ、全教科で児童の思いや考えを引き出し、主体的・対話的な学びのある授業を推進してきた。低学年の外国語活動においては、児童にとって身近な内容の単語や表現を英語で学ぶことにより、多くの児童が積極的に英語で自己表現をしようとしている。

その結果、「外国語活動の授業が楽しい（どちらかという楽しいを含む）」と感じている児童は、1年生では96.7%、2年生では98.5%となった。また、「英語を話せるようになりたい（どちらかという話せるようになりたいを含む）」と思っている児童は、1年生では98.3%、2年生では95.5%となった。英語を使って自分の気持ちを表現できると楽しいと実感できていることが分かる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

昨年の課題は、「リスニング力」と「リーディング」の向上であった。「リスニング力」においては、クラスルームイングリッシュの徹底、聞こえた単語から内容を推測する力の育成に努めてきた結果、6年生が受検したGTEC Juniorでは、昨年度に比べて「聞く力」のスコアが13ポイント向上した。また英検ESGにおいても「リスニング」が12ポイント向上した。

「リーディング」においては、文字と音のルールを取り入れた読み書き指導の結果、英検ESGにおいて12ポイント向上した。

課題としては、「スピーキング力」の向上である。6年生が受検したGTEC Juniorで、「話す力」が昨年度に比べて、17ポイント下回った。

5. 課題の改善のための取組の方向性

スピーキング力の向上のために、「Small talk」の活動で日常的に、自分の本当の気持ちについて既習表現を用いながら伝え合う活動を提供、確保する。また児童が「話したい、活動したい」と思えるよう、児童の興味・関心・他教科等と関連づけた「目的・場面・状況」を設定し、児童の内発的動機づけを高める。これら2つの改善策を実施し、本校児童のスピーキング力の向上に努めていきたい。